

甲府城発掘展 —金箔鯨瓦を探る—

期 間 平成19年4月6日(金)から4月15日(日)

時 間 午前9時～午後5時 (但し、入場は4時30分まで)
(6・7・8日は午後8時まで)

会 場 舞鶴城公園 稲荷櫓 (入場無料)

記念講演

『武田城下町と甲府城下町』

4月7日 (土) 午前10時から12時20分

場 所：恩賜林記念館2階大講堂 (入場無料)

主 催：山梨県立博物館・山梨県埋蔵文化財センター

◎二つの城下町の歴史

甲府市教育委員会 佐々木満

◎今に見る城下町の見どころ

山梨郷土研究会 林陽一郎

人質曲輪

ごあいさつ

甲府城では、平成2～16年度に実施した整備のための発掘調査により、400年前の築城や300年前の柳沢氏による大改修などの様子が明らかになりました。

今回の展示は、城内から出土した鯨瓦に焦点をあて、出土品や関係史料により甲府城築城の様子を知るものです。ごゆっくりご鑑賞ください。

平成19年4月 山梨県教育委員会

みどころ

甲府城跡出土の鯨瓦ほか

大型鯨瓦復元図

全国の鯨瓦パネル

江戸前半期の甲府城絵図

甲府城築城の時代と出土瓦

甲府城は、約400年前、豊臣政権の影響下で東国を鎮める拠点として築城され、江戸幕府成立後も、將軍家の一族が城主をつとめるなど大変重要な位置づけをもっていました。

これまでの発掘調査により城内には織豊系城郭の特徴である金箔瓦が大変多く出土し、1590年代(文禄・慶長年間)には荘厳な建物群が建っていたと想像されますが、残念なことに当時の様子を伝える甲府城築城期の絵図や古文書はほとんど発見されていません。

しかし、出土した大型鯨瓦から全体像を復元する試みや、絵図・文献調査、鬼瓦など飾瓦から当時の建物を追求するなどの研究は端を発したばかりで、これからの大きな課題といえます。

- ### 甲府城年表
- ◆ 一五八二(天正一〇) 織田信長・徳川家康により武田氏滅亡
 - ◆ 一五九〇(天正一八) 甲斐は豊臣領となり、羽柴秀勝(秀吉の甥)が治める。
 - ◆ 一五九一(天正一九) 加藤光泰が治める。
 - ◆ 一五九三(文禄二) 浅野長政・幸長が治める。このころ築城開始か。
 - ◆ 一六〇〇(慶長五) 「関ヶ原の戦い」
 - ◆ このころ甲府城が完成
 - ◆ 一六〇一(慶長六) 甲斐国は徳川領となり、再度平岩親吉が治める。
 - ◆ 一六〇三(慶長八) 「江戸幕府が開かれる」
 - ◆ 徳川義直(家康九男) が治める。
 - ◆ 一六〇七(慶長一二) 城番制(武川十二騎)となる。
 - ◆ 一六一六(元和二) 徳川忠長(二代將軍秀忠二男) が治める。
 - ◆ 一六三二(寛永九) 再び城番制となる。
 - ◆ 一六六一(寛文元) 徳川綱重(三代將軍家光三男) が治める。
 - ◆ 一六六四(寛文四) 城内の大修理がおこなわれる。
 - ◆ 一六七八(延宝六) 徳川綱重(綱重嫡男) が治める。
 - ◆ 一七〇四(宝永元) 綱重が江戸城に移り六代將軍家宣となる。
 - ◆ 一七〇五(宝永二) 柳沢吉保・吉里親子が甲斐国を治める。
 - ◆ 一七〇六(宝永三) 城内の修復がおこなわれる。
 - ◆ 一七二四(享保九) 柳沢氏大和郡山へ移り、勤番支配となる。
 - ◆ 一七二七(享保一二) 甲府城大火
 - ◆ 一八六八(慶応四) 明治維新 板垣退助の官軍が甲府城に無血入城
 - ◆ 一八七三(明治六) 廃城
 - ◆ 一八七七(明治十) 以降 葡萄酒醸造所・甲府停車場・甲府中学など建設
 - ◆ 一九〇四(昭和三十九) 舞鶴城公園として都市計画法決定
 - ◆ 一九六八(昭和四十三) 甲府城跡として県指定史跡となる
 - ◆ 一九九〇(平成二) 平成の整備事業が始まる
 - ◆ 二〇〇四(平成一六) 稲荷櫓復元

甲府城
鯨瓦復元基礎資料

